

# 現在の兩岸関係と未来の政策に関する主張

■ 吳釗燮

「中国」という複雑な概念は、台湾国内で討議するには重大かつ複雑極まりないテーマだ。我々は兩岸関係と兩岸政策を考える場合、次に掲げるいくつかの重大な素因を考慮せざるを得ない。さもなければ、いかなる兩岸政策も単なる片思いに過ぎなくなってしまうだろう。

**一、台湾の民主化：**民主主義が定着した台湾では定期的に選挙が実施されることにより、対中関係を処理する場合、国内が情緒的な争いで二分されてしまう。しかし、民主化後の台湾では、民意の表現の痕跡を探ることが可能だ。

片や、台湾はすでに独立した一つの国家と認識している人民もいれば、一方では中国との統一を望まないものの、中国とは平和的に付き合っていきたいと希望する人々もいる。台湾の新しい趨勢について、台湾の各政党と中国あるいは国際社会は客観的な事実を受け入れるべきである。

**二、台湾の経済発展：**現在、台湾の経済は国際社会と基準を一にしており、中国との貿易経済発展もその一環である。しかし、中国との貿易高が占める割合が高すぎるため、台湾の経済貿易戦略に関して論争が起きている。このため、台湾が中国との貿易関係を発展させる場合と、台湾が対外的に経済発展する場合のバランスを維持し、台湾の主体性が失われないようにすることが重大なテーマである。

**三、国際情勢：**9.11 テロ発生以後、台湾を

取り巻く国際情勢の発展は不利であった。米国は台湾の伝統的な盟友であるものの、米国の国力の発展が世界各地で頭打ちになっているという状況を否定することは出来ない。また、中国の政治的、経済的、軍事的な発展も一つの客観的な事実であり、それが台湾にも影響を与えている。この状況に重大な変化がなければ、台湾が国際社会で直面する状況は今後より一層困難になるだろう。

**四、中国の対台湾政策：**中国の国力は間断なく上昇し続けており、対台湾政策に使えるカードも増えて来ている。また、対台湾戦略はすべて「胡六点」が規定した目標に合わせて進行しており、その最終的な政策目標は「一つの中国」の原則の下、台湾を中国の一部に組み込むことである。

**五、現在の政府の政策：**現在、政府の政策には数多くの盲点があり、それによって台湾は中国の対台湾政策の罫に嵌りつつある。また、馬政府がたとえ兩岸政策を最大の成果だと認識していたとしても、台湾に不利な局面が多数形成されているのは事実である。

馬政府が発足して間もなく4年を迎える現在、兩岸関係と兩岸政策について検討を加えることは必須である。短期的な政策テーマを検討する以外、長期的な趨勢に関しても考慮すべきであり、永久的な解決方法についても留意しておかなくてはならない。どの政党であれ、このテーマに関して

検討を加えることは必須である。民進党が再び政権を奪還する可能性があり、かつ対中関係の立場が微妙に異なる現在の状況の下では、台湾と中国は社会における討論を充分に行えるだろうか。

このため、未来の台湾政府は、平和的な対話、相互の尊重、対等な交流、共同利益と国家のコンセンサスの核心的価値を堅持し、兩岸関係の改善と正常化を追求すべきである。

未来の兩岸政策に関する具体的な我々の主張は以下の4つの項目である。

一、兩岸の長期的な関係を推進し、関係正常化を目標とする。兩岸を「兄弟の国」とし、双方の有効的な関係を維持する。

二、「兄弟の国」の具体的な内容は、平和的かつ対等な条件下で、兩岸が協議を進め、関係正常化を達成することが目標である。中国は常に兩岸協議は一つの基礎であると主張しているが、この基礎とは何であろうか。この基礎も平等な協議によってこそ取得出来るものであり、かつ拘束力を有することになるものだ。

三、合意された協議の尊重：この目標達成を前に、我々はすでに兩岸で協議されたことを尊重しなくてはならない。これが正常な国際協議の姿であるが、ただし、その協議の中で、台湾にとって不利な部分については検討を加えていく必要がある。

四、兩岸は善意を持って積極的に共同利益と協力出来る空間を追及していくべきである。また、この共同利益と協力出来る空間には、国内の議題あるいは国際的な議題も含まれており、そうすることで無為な対立が解消され、協力体制への一歩が踏み出せることになるだろう。BT